



青島の風

青島日本人学校だより
令和元年7月24日
校長 金森 孝子

充实的暑假开始啦！

7月も半ばが過ぎた頃、早朝から学校全体が蝉の鳴き声に包まれるようになりました。同安路を挟んだ高台から、そして学校の周りの木々から、いろいろな蝉の鳴き声が聞こえてきます。

一般に、蝉は、幼虫として土の中で2～5年を過ごし、成虫になってから10日余りしか生きられないと言われています。最近、これを覆すような発見をした高校生のことが話題になりました。彼は蝉千匹を捕まえ、マークをつけて放し、実際にどれだけ生きられるのかを観察したというのです。結果、一か月以上生きる蝉が多数見つかり、今まで言われてきたことが本当かどうか分からなくなったと報道されていました。私は、蝉の生態そのものより、定説に疑問をもち、調べる方法を考え観察した高校生の追究への思いと行動力に強く衝撃を受けました。彼は、「まだサンプルとして数が少ない。もっと、数を増やして調べたい。」と話しているそうです。

さて、歴史的な平成から令和への改元があった一学期も終業式の日を迎え、72日間（小学部1年中学部1年は71日間）の教育活動を無事終えることができました。「ち」「ん」「た」「お」の4つ力を、さらにlevel「レ」ベル・アップさせため、imagination「イ」マジネーション（想像）豊かにwide「ワ」イドな（幅広い）視点から、伸ばしていくことに、改善や工夫を加えながら取り組んできました。臨時休校するなど突如の行事変更もありましたが、ひとえに、学校運営理事長はじめ理事の皆様、青島日本人会の各企業はじめ会員の皆様、PTA役員をはじめ保護者の皆様が、学校を温かく見守りご支援いただいているおかげと、深く感謝申し上げます。

いよいよ明日から21日間の夏休みです。紹介した高校生のようなことは容易にできませんが、夏休みならではの体験、自分の課題と向き合いながらの学習ができる貴重な期間です。休み明け、成長した子どもたちと会うことを楽しみにしております。请愉快地度过暑假！



中国文化鑑賞会（PTA主催 R1 7月17日）

音楽朝会

音楽担当 岡本直恵

2か月に一度行われる音楽朝会は、小学1年生から中学3年生までと一緒に音楽を味わう素敵な時間です。一回目の5月は、校歌を二部合唱で歌いました。小1～4までは高音パートを、小5～中3は低音パートを担当しました。いつもは斉唱で歌うことの多い校歌を二部合唱で歌うことにより、青島日本人学校の校歌の美しさをより感じることができました。

6月末に行われた二回目の集会では、中学生が伝統楽器の演奏を発表しました。一曲目は古箏、二胡、三線による合奏で、「さくら」を演奏しました。中国と日本の響きが溶け合い、柔らかい音色に包まれました。二曲目は「茉莉花」です。中学生の奏でるリコーダーにのせて、小学生が一番を中国語で、二番を日本語で歌いました。歌詞の内容に合った、やさしい歌声が響きました。

三回目は9月に行います。運動会に向けて校歌と応援歌の練習を行う予定です。集会を重ねるごとに、全校児童生徒の声が溶け合い、深まっていくのが楽しみです。



小学校英語について

小学部英語科担当：迎 香純

2020年から小学校の英語教育が必修化となります。それに向けて、青島日本人学校も英語教育に取り組んでいます。1年生から4年生までは、英語の歌を歌ったり、英語を取り入れたゲームをしたり、英語に慣れ親しむ「ファンタイム」という朝の活動に加え、週に1時間、ALTと教科担任での授業があり、計2時間英語活動に取り組んでいます。5、6年生はALTとのコミュニケーションの時間に加え、教科書を用いた教科担任による英語科の授業を週3時間行っています。

5、6年生に関しては、英語が教科化されるため、今までのように話したり聞いたりするといった英語への慣れ親しみだけでなく、「書くこと」「読むこと」といった内容も含まれてきます。ゲームを通して新出単語に慣れ親しんだ後は、英語を実際に使って話す活動を取り入れています。自分の住んでいる場所を説明する紹介文を書いて発表したり、その単元で場面を設定し、好きなものを聞き合う会話文をペアで考えて劇をしたり、英語を用いて表現します。子どもたちの振り返りカードを見ると、「英語の授業を重ねるたびに、少しずつ英語の自信がついてきた」という感想が見られました。人とつながる便利なツールとして、楽しく英語を身につけていってほしいです。



職員の研究・研修

研究主任：岩本 梨花

私たち青島日本人学校の教職員はお互い切磋琢磨し、教師としての授業力向上のために、日々研究・研修を行っています。年間を通して、お互いの授業を見合っって協議会をもったり、現地理解教育のために、現地企業を訪問させていただいたりしています。

今年度は研究テーマを「深い学びをめざした授業の創造」としました。来年度の学習指導要領の完全実施に向けて、すべての教育活動にとって、「主体的・対話的で深い学び」が重要なキーワードとなっていきます。新学習指導要領では、子どもたちが「主体的」に学びに向かい、「対話的」な活動を通して学ぶことで、新たな知識や考え方を得る「深い学び」を実現することを目指しています。そこで、それぞれの教科で「『深い学び』を実現する子どもの姿とは？」と、実際の「子どもの姿」をイメージしながら授業を構築していく中で、授業改善を図っています。子どもたちが「深い学び」を実現するための手立てを考え、教職員一丸となって学んでおります。

2学期以降、その成果を授業の中に生かしていきます。公開授業などの折にぜひご覧下さい。

